



キンセンフエダイの
群れを撮影するダイバー

Photo & Text = Yasuaki Kagii
Special Thanks = Samui Diving Service
Design = FarnDesign

摩訶不思議な
タオ島の海で
へんてこワールドを
満喫！

THAILAND KOH TAO

マレー半島とインドシナ半島に挟まれたタイ湾は、
外洋からの影響を受けにくい閉鎖的な海域になっている。

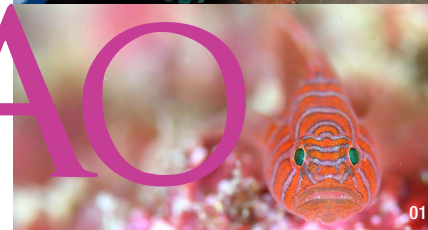
日収潮汐で1日に一度しか干満がなく、
潮の変化が少ないために、
生き物たちの溜まり場になっている。

そのような理由からか、
息する生き物たちが、他のエリアに比べて、
少し様子が可笑的。

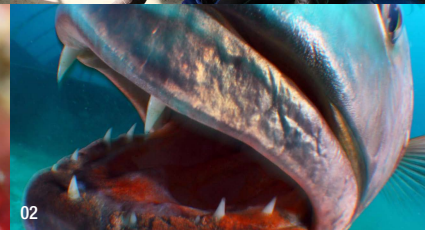
例えば、魚類種はそれほど多くはないが、
同種の魚が異常に繁殖していたり、
また個体がかかなり大きかったりする。
そのほかにも、大物ポイントでの魚群の大きさや
ジンベイザメとの遭遇確率などは、
他の海とは明らかに異なる。

今回は、そんなタオ島の摩訶不思議な世界に、
ぐつぐつ！と接近して撮影してみた！

ガイドのケアがステキなので
船上の雰囲気も楽しげ



01



02

01 こんなにかわいい
ハゼもお目見え

02 フェダイに大接近！
虫の目レンズで激写！



ヤシペラの繊細な胸鰭を写す



Information Link
<http://www.samuidiving.net>

関連情報HPへ



3 ～4月は、アンダマン海もタオ島も海のベストシーズンに当たる。特にタオ島は晴天が続く日がほとんどで、楽園としての顔を覗かせる。また海中も魚影の濃さは半端ではない。大物ポイントと呼ばれる「チュンボン・ピナクル」「サウスウエスト・ピナクル」「セイルロック」などでは、キンセンフエダイ、ホソヒラアジ、イエローバンド・フエジューラーなどが視界を遮るほど、ごっちゃりと群れている。5月以降になると、ヤイトハタやツムブリ、コガネアジなどが捕食を繰り返すためか(?)その群れの規模はどんどん小さくなっていく。海の季節も巡る。

ま た、この3つの大物ポイントは、海中山脈のような地形も見応えがある。エントリーして俯瞰で眺めると、まるで空を飛びながら、ヨーロッパの山々を見下ろしている気持ちになる。そして深度を下げると、根の上や側面に、センジュインギンチャクの群生やブラックコーラルの森など他では見られない景観が続く。そして、この海中山脈には、ジンベイザメが泳ぎ来る可能性がある。一度、出現すると数日間は居つくことも多く、出会う可能性がぐんと高くなる。もちろん、絶対というわけではない。しかし、タオ島の海は、時折、本当にハッピーなプレゼント(出会い)を与えてくれる。

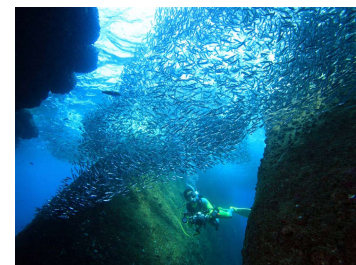
タオ島では高確率でジンベイザメに会える



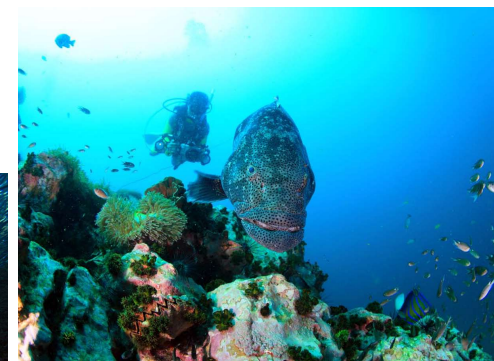
海中山脈を覆うホソヒラアジの群れ

海中山脈からの ハッピーなプレゼント!

複雑な地形に群れる小魚の群れとマスコッティ



摩訶不思議な
タオ島の海で
へんてこワールドを満喫!
THAILAND
KHOHTAO



群れの近くで捕食の機会を狙うヤイトハタ

どんだけ接近できるの～？ タオ島のハゼ～！

タオ島に隣接したナンユアン島周辺は、潮の流れの影響を受けることが少ない穏やかなポイントが揃っている。そのなかでも人気ポイントの「ツインズ」は、ギンガハゼやレッドマージンシュリンプゴビー、ヒメダテハゼなどのコロニーがたくさん点在する。

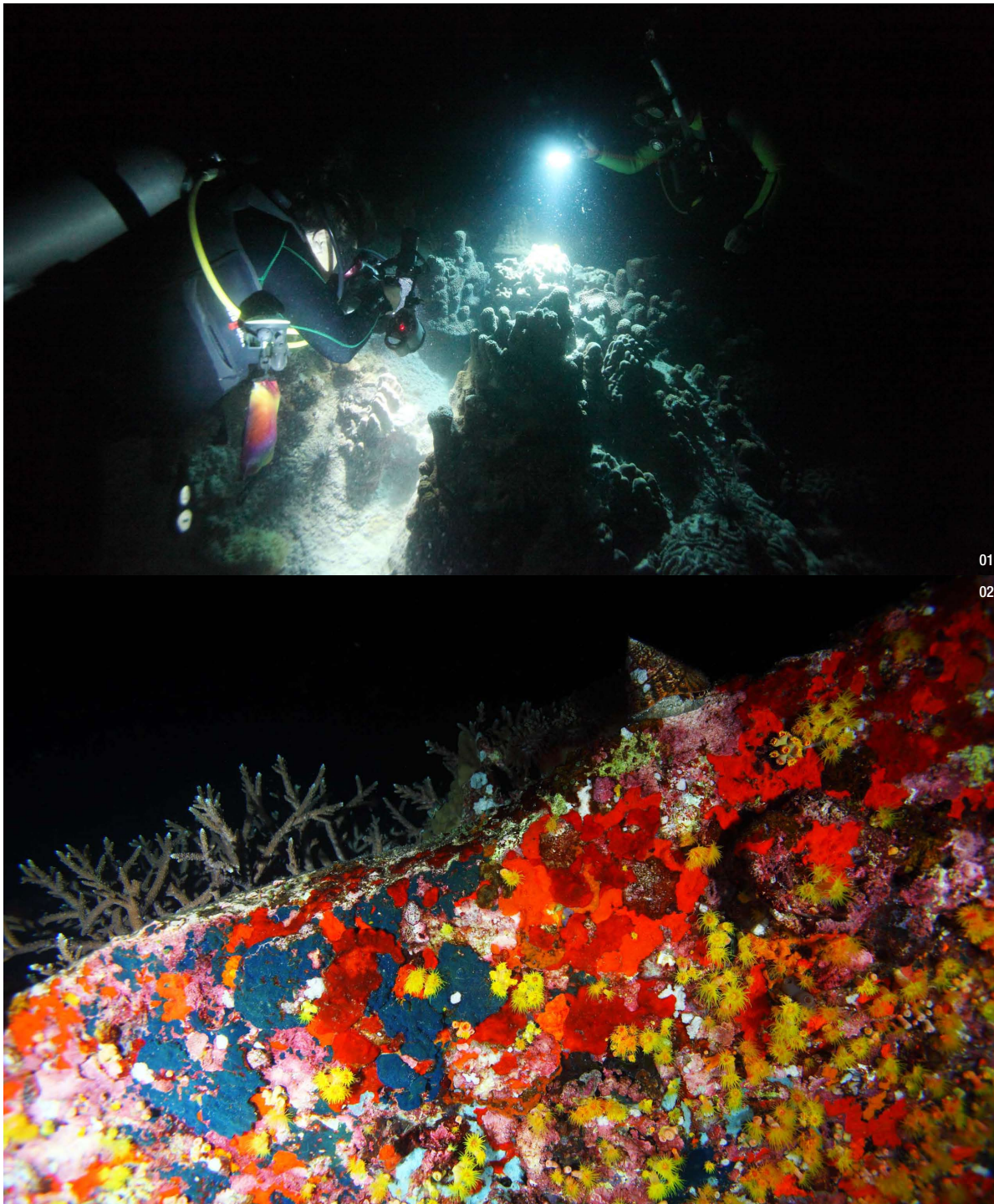
あまり逃げそうにないハゼのペアを見て、じっと観察していると、実は自分の周りもたくさんのハゼがゴコボコと顔を出しているのに気が付く。たくさんいるために、あっちもこっちも写真撮影がしたくなるが、そこはぐっと堪えて、狙いを定めたペアににじり寄っていく。すると最終的には手で触れることができるほどの距離まで接近することができる。そんな超接近撮が、タオの海では簡単に出来てしまうことが特徴のひとつでもある。通常、ハゼの撮影などは、どのように接近していくのか？という駆け引きが面白い。しかし、タオ島のハゼにはそのような緊張感があまりなく、とても簡単に撮影できてしまう。ある意味、生物の撮影の醍醐味をはしょったスタイルでもある……（笑）。今回はそれでは面白くないので、ガイドのマスコッティ（増子 均さん）からイノン製の虫の目レンズ付きカメラを借りて撮影。最終的にレンズの先、1センチの距離まで近寄ることができた。レンズでハゼの頬をツンツン出来そうな距離で撮影できてしまうと、タオ島のハゼはよほど肝が据わっているのか？はたまた、よほど鈍感なのか？と少し嬉しくもあり、心配にもなった（笑）。

ギンガハゼの様子を
虫の目レンズで表現してみた



Information Link
<http://www.samuidiving.net>

関連情報HPへ



01

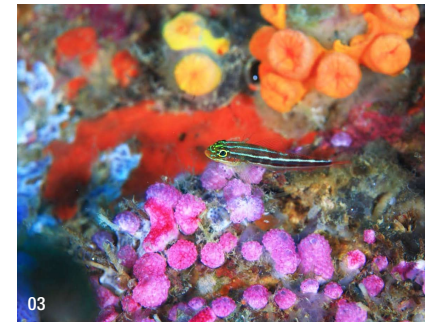
02

01 ナイトダイビングも面白いので是非お薦めする

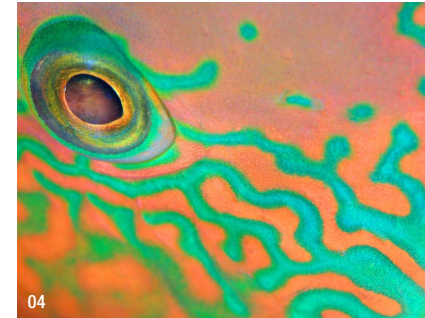
02 色とりどりの岩壁に遭遇。フィッシュウォッチングとはまた違った魅力を知る

午 前、午後、そしてナイトダイブとダイビングボートから一度も降りることなく、1日5本のダイビングを楽しんだ。ボートの上は快適で、サンデッキや日除けエリアなど快適スペースも多く、自由に寛ぐことができた。インタバールの時間は、海風にあたりながら気分だけは「海の民」になっていた。最終のナイトダイブ、虫の目レンズでハゼを撮影した「ツインズ」に再び潜った。ダイビングの途中に、水中ライトに照らし出された原色の壁に辿り着いた。昼間では気が付き難い自然の色と造詣が浮かび上がっていた。暗い海中で、美術館に辿り着いた気持ちになった。

他 にも、タオ島取材でマスコッティーにお世話になると、必ず訪れる岩壁がある。それは、「グリーンロック」というポイントにある。カラフルでビビットなホヤ、カイメンが群生し、そこにはタテジマヘビギンボやヒブサミノウミウシがいる。紫色やピンク色、黄色などの華やかなキャンバスにかわいいモデルさんが用意されている。この壁は日中でもその色を認識することができる。一緒に潜った女性カメラマンもこの壁に1時間も張り付き撮影を続けていた。



03



04

03 グリーンロックで撮影したタテジマヘビギンボ

04 ナイトダイブで撮影したスジブダイのサイケデリックなデザイン

ナイトダイブで見つけた タオ島の美術館

摩訶不思議な
タオ島の海で
へんてこワイルドを満喫！
THAILAND
KOH TAO



Information Link
<http://www.samuidiving.net>

← 関連情報HPへ

タオの海で、よく目に付くのが、
イバラカンザシ！

イバラカンザシのサンゴに群れる
クロリボンスズメダイの群れ



イバラカンザシを啄ばみにやってきた
ハタテダイ

タ オの海でよく目に付くのが、イバラカンザシだ。サンゴの上でこれ以上ないくらいカラフルに咲き乱れている。思

えばダイバーになって、初めて海の中でイバラカンザシを見たとき、担当のイントラが、私の指をイバラカンザシに近づけた瞬間、美しい螺旋の羽がサッと消えた。私は「ぐうあ!」と恥ずかしげな声を水中で上げていた……。それ以来、すっかりイバラカンザシの魅力に取り付かれた私は、ガイド時代に体験ダイビングのゲストに同じようにイバラカンザシを紹介するようになっていた。

そのイバラカンザシがタオ島の海にはてんこ盛りにある。観察していると、ベラやチョウチョウウオがまるで〈モグラたたき〉のようにイバラカンザシを啄ばんでい

摩訶不思議な
タオ島の海で
へんてこワールドを満喫!

THAILAND
KHOITAO

タオ島の海を彩る 常夏のクリスマスツリー!

る。しかし、そのような刺激を受ける以外は、こちらもタオ島のハゼ同様に全然に引っ込む気配がない。そうなれば、こんなに美しいのだから、モデルさんとして活躍してもらうしかない。タテジマヘビギンポと一緒に撮影してみたり、他の魚が花見を楽しんでいるようなイメージで撮影したりと勝手に物語を膨らませてみる。そして、虫の目レンズでも撮影してみた。肉眼では気づかなかった繊細なラインに私の写欲が掻き立てられた。

タ オ島の海、
すげ〜!

タテジマヘビギンポの
背景にイバラカンザシ
を配置する



虫の目レンズで接近
撮。カラフルなイバラ
カンザシに魅了される



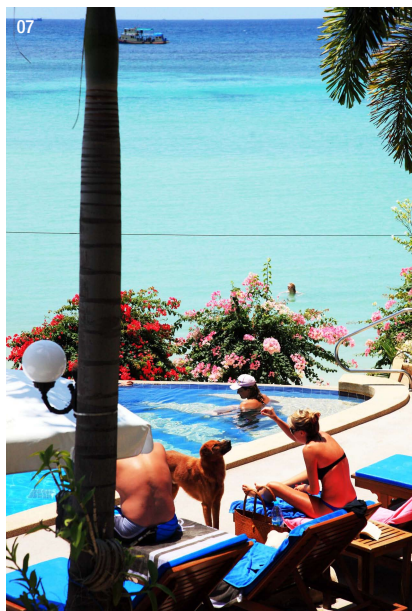
タオ島でお世話になった ダイビングサービス & リゾート!

RESORT



ビーチサイドと 小高い丘の傾斜にあるリゾート コタオリゾート

タオ島の中でも老舗のリゾートで、施設や設備、サービスなどはトップクラスを誇る。客室には、テレビ、冷蔵庫、エアコン、トイレ、ホットシャワー、ワイヤレスインターネットを完備。レストランがチャロックバンカオ湾を見下ろすビーチフロントに移転するなどリゾートとしての進化を続ける。また、隣接するコタオハーバーにもBarが併設され、雰囲気も抜群。一般のゲストには、丘の上に増設されたパラダイスのゾーンが人気だが、ダイバーにはビーチ側のゾーンが便利。リゾート内にはサムイダイビングサービス・たおみせが併設されているので何かと便利だ。



DIVING SERVICE



タオ島唯一の 完全日本人経営ダイビングサービス サムイダイビングサービス たおみせ

生物を見つける眼力、コンディションの把握など何でも詳しいひろみさん、女性ならではの行き届いたサービスもゲストから支持されている。そして、タイ歴15年目を迎えるマスコッティーこと増子均さん。老若男女に人気があり、水中撮影にも造詣が深い。最近はデジタル一眼虫の目レンズを愛機に、新しいタオの海の表現を発表している。その他にヨーロッパスタッフも在籍し、国際色豊かなサービスとなっている。

- 01 珍しいツキチョウ
チョウウオはタオの海
ではお馴染みの種類
- 02 キロイボウミウシ
の色彩変異バジェ
ョン!
- 03 アミトキウセン
の縄張り争い
- 04 美味しいタイ料理
に舌鼓!
- 05 ロビーの様子。リ
ゾート内は開放的で
広々としている
- 06 メインレストラン横
のサブプール
- 07 海を眺めながら楽
しめるプール。リゾ
ートライフを満喫できる
- 08 陽気で気持ちいい
スタッフが集まる、サム
イダイビングサービス
- 09 洋上に浮かぶダイ
ビングポート

摩訶不思議な
タオ島の海で
へんてこワールドを満喫!

THAILAND
KOH TAO



Information Link
<http://www.samuidiving.net>

←関連情報HPへ